

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況（内規第 11 条 活動報告）

団体名	和	太陽地球系物理学科学委員会
	英	Scientific Committee on Solar-Terrestrial Physics (略称 SCOSTEP)
	団体 HP (URL)	https://scostep.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 (有) ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)	<p>変動する太陽活動が地球周辺の宇宙空間の利用や地球気候に与える影響の理解と予測は、人類にとって喫緊の課題になっている。このため SCOSTEP は、2020 年からの 5 か年プログラムとして、「Predictability of variable solar-terrestrial coupling (PRESTO)」(変動する太陽地球結合系の予測可能性)を推進している。この中で、太陽地球結合のさまざまな科学課題について国際的なリーダーシップの枠組みの中で議論が行われている。2019 年 7 月からは名古屋大学の塩川和夫教授が SCOSTEP の会長に選出され、このプログラムを国際的に主導している。また、SCOSTEP は 2012 年から国連宇宙平和利用委員会 (UN/COPUOS) の恒久オブザーバーになっており、同委員会と連携したワークショップなどを開催するとともに、毎年この委員会で活動報告を行っている。</p> <p>SCOSTEP は 4 年に 1 回、Solar-Terrestrial Physics (STP) シンポジウムという国際研究集会を開催しているが、次回開催 (第 15 回) は 2022 年 2 月 21—25 日にインドを宿主国としてオンラインで開催される予定である。PRESTO プログラムの最新の成果もこの中で議論される予定である。</p>	
当該国際学術団体の対応する分野の学術の進歩に貢献した事例	<p>SCOSTEP が 2014-2018 年に推進した VarSITI プログラム (太陽活動変動とその地球への影響) では、5 年間で 63 件の国際会議、16 件のデータベース構築を支援し、71 か国から 1000 名以上の研究者が参加するなど、太陽地球系物理学の大きな流れを作り、弱まりつつある太陽活動の今後の予測やその地球への影響の可能性についての研究が大きく進展した。このプログラムでは、日本とブルガリアの 2 名の研究者が 5 年間の国際共同議長を務めており、日本の貢献も大きい。</p>	
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について	<p>SCOSTEP が 2020-2024 年に推進している PRESTO プログラムでは 3 つの pillar(柱)が設けられており、その中には短期・長期の太陽活動変動が地球及び地球周辺の宇宙環境に及ぼす影響の予測研究が含まれている。人類が社会生活のために宇宙空間を利用するようになった現代において、これらの研究は、宇宙利用や地球環境変動予測に関連した政策決定上、重要な事項となりうる。また、太陽地球系の各領域は複雑に絡み合っており、全体を一つのシステムとして理解することが重要である。その観点から、オゾン層破壊や地球温暖化に関しても、SCOSTEP が所掌する研究対象となっており、得られた</p>	

	<p>成果は、加盟各国の政策等に反映される可能性がある。</p>
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて</p>	<p>SCOSTEP が主導する国際協同観測研究計画は、各国の提案を受けて、科学委員会（ワーキンググループ）、理事会、総会の議を通して決定される。それらの計画の中間評価と総括のために我が国は節目に国際シンポジウム（1979年 IMS シンポジウム（東京）、1983年 MAP シンポジウム（京都）、1994年 STEP シンポジウム（仙台）、2000年 S-RAMP シンポジウム（札幌）、2007年 CAWSES シンポジウム（京都）、2013年 CAWSES-II シンポジウム（名古屋））を開催した。最近では、5年毎に国際協同観測研究プログラムを運用しており、2009-2013年の CAWSES-II プログラムでは京都大・津田敏隆教授が、2014-2018年の VarSITI プログラムでは名古屋大・塩川和夫教授がそれぞれ国際共同議長を務め、プログラムの成功に大きく貢献した。その間、我が国が主導した各種科学衛星（あけぼの、ジオテイル、れいめい、ひので、あらせ等）や、大型地上観測機器（MU・PANSY・EISCAT レーダーへの参加、地上多点観測網など）により、太陽・地球電磁圏・中層大気の構造とダイナミクスの理解など、顕著な成果をあげると至っている。</p> <p>2019年7月からは、塩川和夫教授が日本からは初めて SCOSTEP の President（会長）に選出され、名古屋大学の三好由純教授が COSPAR からのリエゾンとして理事に着任した。さらに2021年9月から、情報通信研究機構の石井守博士が、WDS からのリエゾンとして理事に選出された。これにより、SCOSTEP の会長と、理事8名のうち2名が日本人という体制になっている。</p>
<p>加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて</p>	<p>太陽地球系物理学の分野では、サイエンス面での優位性だけでなく、研究集会や国際協同事業におけるイニシアティブの面においても日本の存在感が非常に大きい。1957年に実施された IGY から継続して IMS、MAP、STEP、PSMOS/EPIC/S-RAMP、CAWSES、CAWSES-II、VarSITI、PRESTO といった国際協同観測研究計画に日本は積極的に参加し、かつ主導的な役割を果たしてきている。先端的観測プロジェクトの推進、各種国際スクールの実施、国際シンポジウム・オンラインセミナーの実施、海外の著名な研究者の招聘、若手研究者の海外派遣事業などを通じて国内外の若手研究者の育成に効果があった。ICSU 傘下の委員会の中でも日本の貢献が特に顕著な委員会であり、我が国のステータス向上に資するところは大きい。</p>
<p>その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的</p>	<p>SCOSTEP は、若手育成、発展途上国支援に特に力をいれており、活動支援の中でも Capacity Building への予算配分が大きい。発展途上国の若手研究者・大学院生を国内外の著名研究機関に派遣する Visiting Scholar プログラムなど特徴ある制度を導入している。また、役員等のジェンダーバランスにも配</p>

な方策等の特記事項など)	慮を行っている。
--------------	----------

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	2013 年に CAUSES-II シンポジウムを 300 人超の規模で開催したため、近々に大規模な総会などの開催の予定はない。名大・塩川教授が現在の President であるので、今後、各種会合が日本で開催される可能性はある。
日本人の役員立候補等の予定について	2019 年から名大・塩川教授が President (会長)、名大・三好教授が Bureau member (理事) を務めている。2021 年 9 月から、NICT・石井守室長が新たに Bureau member (理事) を務めている。科学領域代表(SDR)には、日本からは現在 5 名の研究者が選ばれており、改選時には若手・中堅を中心に推薦を行う予定である。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	これまで SCOSTEP が実施してきた国際協同観測研究計画の立案・推進には我が国が大きな貢献をしており、現行の PRESTO プログラムでは、プログラムの内容を議論する段階から多くの日本人研究者が参加し、我が国の提案が強く反映されている。

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去 5 年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	科学総会 (STP シンポジウム) 2022 年 (開催地: インド・アリバード (online))、2018 年 (開催地: カナダ・カルガリー) 代表者会議 (総会) 2022 年 (開催地: online (予定))、2019 年 (開催地: カナダ・トロント)、2017 年 (開催地: オーストリア・ウィーン)
	理事会・役員会等開催状況	理事会 2021 年 (開催地: オンライン×2 回)、2020 年 (開催地: オンライン×2 回)、2019 年 (開催地: オンライン)、2018 年 (開催地: オーストリア・ウィーン)、2017 年 (開催地: オーストリア・ウィーン)、2016 年 (開催地: カナダ・トロント)
	各種委員会開催状況	次期プログラム検討委員会 2019 年 (開催地: スイス・ベルン)、2018 年 (開催地: 中国・北京) PRESTO 運営委員会: 2019 年 (開催地: 米国・サンフランシスコ)、2020 年から毎年 2 回程度、オンラインで開催 賞推薦委員会: 2019 年より毎年秋にオンラインで開催 賞選考委員会: 毎年冬にオンラインで開催 メンバーシップ委員会: メール審議及び理事会での議論 SCOSTEP Visiting Scholar (SVS) 選考委員会; 毎年 2 月にオンラインで開催

	研究集会・会議等開催状況	<p>VarSITI や PRESTO プログラムに関連し、毎年数件から 15 件程度の国際研究集会や、年間数件の大学院生・若手研究者向けの国際スクールを、SCOSTEP 経費で支援・開催している。2016 年以降に開催された代表的なものを以下に示す。</p> <p>VarSITI まとめワークショップ 2019 年（開催地：日本・名古屋） VarSITI 最終シンポジウム 2019 年（開催地：ブルガリア・ソフィア）、 第 2 回 VarSITI 総合シンポジウム 2017 年（開催地：ロシア・イルクーツク）、第 1 回 VarSITI 総合シンポジウム 2016 年（開催地：ブルガリア・アルペナ）、ISELLI 国際スクール 2017 年（開催地：ナイジェリア・アブジャ及びオタ）、ISELION 国際スクール 2018 年（開催地：インドネシア・バンドン）</p>																							
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	<p>2022 年、科学総会（STP-15 シンポジウム）（開催地：インド・アリバード・online）、2 名（うち代表派遣（予定）：塩川和夫・三好由純） ... 2019 年、理事会（開催地：米国・ボストン）、2 名 2019 年、代表者会議（総会）（開催地：カナダ・トロント）、2 名 2019 年、VarSITI 最終シンポジウム（開催地：ブルガリア・ソフィア）、5 名 2019 年、将来検討委員会（開催地：スイス・ベルン）、1 名 2018 年、科学総会（STP-14 シンポジウム）（開催地：カナダ・トロント）、8 名（うち代表派遣：塩川和夫） 2018 年、理事会（開催地：オーストリア・ウィーン）、1 名 2019 年、将来検討委員会（開催地：中国・北京）4 名 2017 年、第 2 回 VarSITI 総合シンポジウム（開催地：ロシア・イルクーツク）、5 名 2017 年、理事会（開催地：オーストリア・ウィーン）、1 名（代表派遣：中村卓司） 2016 年、第 1 回 VarSITI 総合シンポジウム（開催地：ブルガリア・アルペナ）、6 名（うち代表派遣：塩川和夫） 2016 年、理事会（開催地：カナダ・トロント）、1 名</p>																								
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="547 1440 715 1496">役職名</th> <th data-bbox="715 1440 930 1496">役職就任期間</th> <th data-bbox="930 1440 1121 1496">氏名</th> <th data-bbox="1121 1440 1410 1496">会員、連携会員の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="547 1496 715 1574">委員長 (President)</td> <td data-bbox="715 1496 930 1574">2019～</td> <td data-bbox="930 1496 1121 1574">塩川和夫</td> <td data-bbox="1121 1496 1410 1574">(25 期) 連携</td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 1574 715 1697">理事 (Bureau Member)</td> <td data-bbox="715 1574 930 1697">2019～</td> <td data-bbox="930 1574 1121 1697">三好由純</td> <td data-bbox="1121 1574 1410 1697"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 1697 715 1821">理事 (Bureau Member)</td> <td data-bbox="715 1697 930 1821">2021～</td> <td data-bbox="930 1697 1121 1821">石井守</td> <td data-bbox="1121 1697 1410 1821"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 1821 715 1944">理事 (Bureau Member)</td> <td data-bbox="715 1821 930 1944">2011 ～2018</td> <td data-bbox="930 1821 1121 1944">中村卓司</td> <td data-bbox="1121 1821 1410 1944">(25 期) 会員</td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 1944 715 1980">VarSITI 共</td> <td data-bbox="715 1944 930 1980">2014 ～ 2018</td> <td data-bbox="930 1944 1121 1980">塩川和夫</td> <td data-bbox="1121 1944 1410 1980">(25 期) 連携</td> </tr> </tbody> </table>	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別	委員長 (President)	2019～	塩川和夫	(25 期) 連携	理事 (Bureau Member)	2019～	三好由純		理事 (Bureau Member)	2021～	石井守		理事 (Bureau Member)	2011 ～2018	中村卓司	(25 期) 会員	VarSITI 共	2014 ～ 2018	塩川和夫	(25 期) 連携
役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別																						
委員長 (President)	2019～	塩川和夫	(25 期) 連携																						
理事 (Bureau Member)	2019～	三好由純																							
理事 (Bureau Member)	2021～	石井守																							
理事 (Bureau Member)	2011 ～2018	中村卓司	(25 期) 会員																						
VarSITI 共	2014 ～ 2018	塩川和夫	(25 期) 連携																						

	同議長			
	科学領域代表(SDR)	2015～	坂尾太郎	
	〃	2015～	高橋幸弘	
	〃	2015～	篠原 育	
	〃	2015～	Huixin Liu	
	〃	2020～	余田成男	
出版物	1 定期的	SCOSTEP Annual Report (年 1 回) SCOSTEP/PRESTO newsletter (年 4 回)		
	2 不定期	Comic Books in more than ten different languages		
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 SCOSTEP/PRESTO Newsletter: (https://scostep.org/newsletter-archive/)				

4 国際学術団体に関する基礎的事項（内規第 3 条、4 条、5 条）

	委員会名	地球惑星科学委員会・国際連携分科会・SCOSTEP-STPP 小委員会
	委員長名	塩川 和夫
国内委員会 (内規4条第3号)	当期の活動状況	<p>(開催日時 主な審議事項等)</p> <p>第1回 令和3年1月18日 11時00分—12時00分 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長/副委員長/幹事の決定について ・学術会議の組織・本小委員会の位置づけに関する情報交換 ・太陽地球系物理学に関する国際活動の振興及び STPP 関係の活動 (ISWI 等) に関する情報交換 <p>第2回 令和3年5月26日 13時00分—14時00分 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SCOSTEP 及び PRESTO プログラム (2020-2024) の活動に関する情報交換 ・ URSI 総会 SCOSTEP/PRESTO セッションにおける日本代表のプレゼンについて ・その他 STPP 関係の活動 (ISWI 等) に関する情報交換
内規第3 (国際学術団体の要件関係)	<p>国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である</p> <p>①. 該当する 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (https://scostep.org/about/)</p>	
	<p>各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か)</p> <p>①. 該当する 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (https://scostep.org/about/)</p>	
	<p>下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印)</p> <p>ア 個々の学術の専門分野における統一のかつ世界的な組織を有するもの</p> <p>① 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一のかつ世界的な組織を有するもの</p> <p>ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p>	

	<p>10 ヲ国を越える各国代表会員が加入している ①. 該当する 2. 該当しない</p>
	<p>(31 ヲ国)</p> <p>・各国代表会員名／国名 National Academy of Sciences, USA Russian Academy of Science, Russia Australian Academy of Sciences, Australia Chinese Society of Space Research, China CNES & COFUSI, France German Research Organization, Germany Science and Technology Facility Council, UK Indian National Science Academy, India Royal Academy of Sciences, Sweden Norwegian Space Centre, Norway</p>

加入国数及び
主要な各国代
表会員を
10 記載